

「みんなでつくろう 市民トーク」開催結果（勝間田地区）

1 日時等

- (1) 日 時 令和元年8月5日（月） 午後7時00分～午後8時35分
- (2) 会 場 勝間田会館
- (3) 内 容 市長による市政情報、地区が希望する説明、意見交換
- (4) 参加人数 70人



2 地区の希望する市政内容について説明（19:50-:20:10）

(1) 勝間田川堤防の荒廃防止について

温暖化等により大雨や集中豪雨が予想され、河川が増水により想定外の水位になるかもしれません。しかし現状の堤防は竹や草が生い茂り、人の立ち入りすら困難な状況にあり、危険な状態を把握することができません。

もし、何らかの理由で人が川に流されたり、堤防に亀裂や決壊が発生しても対処することが困難な状況にあります。せめて堤防上だけでも地区住民の手（河川愛護運動や河川近くの地権者）に頼らず、行政（島田土木・牧之原市）の手で整備し、車や人が通行できるようにならないか？

【回答：杉本市長】

現地写真を確認したところ、本当に酷いジャングルになっていました。地域の皆さんでは太刀打ちできる状況ではないので、市としても県に対し伐採整備を要望したいと思います。区からの要望に市の副申を付けてという形でやらせていただければと思います。

しかしながら、県にその個所を毎年やれと言うことも中々難しいところがあります。市内ではリバーフレンドシップという制度により、草刈りなどの河川堤防の整備を行っていただいています。この制度は、草刈り機を貸したり、草刈り機の歯や油代を提供してくれるというものです。一定の区間を一定のグル

ープで管理していただくとありがたいです。勝間田川では河口から上流にかけて10団体の皆さんに取り組んでいただいています。

(2) 歩道設置について

朝生橋から新戸のあたりまで、道が狭いため通学の自動車が事故に巻き込まれるおそれがある。焼津水産の跡地に、丸総という大きな倉庫ができて、大型車が通るようになりました。朝生地域においては歩道がないため、歩道を作っていただけないでしょうか。

【回答：杉本市長】

朝生から勝間田小学校までは、私が建設課にいた時に歩道整備を行いました。東名下のガードも、地域の小学生の意見をいただき、狭い歩道ですが整備をしました。歩道は、原則として小学生の通学路を基準に整備するので、朝生から向こうは学区が違うため手付かずです。川崎区からもローソンから広域農道に向けて歩道整備をしてほしいとの要望がありますので、順次整備をしていかないといけないと思っています。

歩道整備には住宅移転なども必要であり、予算・経費がかかりますので、まずは安全対策ということでグリーンベルトを敷き、車道の幅員を狭めて走りづらくし、スピードを落とさせています。これにより歩行者の安全性を高める対策をしています。ハード整備をやらないということではなく、当面の安全対策としてグリーンベルトを早急に取り組みたいと思います。

(3) 県道吉田大東線の地蔵トンネルの拡幅について

県道吉田大東線の地蔵トンネルは、主要道路でありながら幅員も狭く、危険や閉塞感を感じるトンネルです。勝間田と坂部を繋ぐ重要な道路であり、普段の生活や仕事上での往来も数多くあります。トンネル内での大型車同士のすれ違いはできません。このようなトンネルの現状を考えると、老朽化も心配ですが、地域の将来のためにトンネルの切り割り、拡幅を市の主要施策に取り上げていただきたく思います。

【回答：杉本市長】

道路を広げるとなると、用地の取得が最大のネックです。沿線の土地所有者の理解がないと予算がつかえません。特に県道ですので、県管理となります。

過去にそういった経緯で話が潰れてしまった事業については、県は相当慎重になります。勝間の歩道についてもそうですが、事業準備着手制度に乗っかって、関係の皆さんのご理解をいただければ、事業費が付くということを考えていただくとありがたいです。そうした支援については、県や市の関係課も入り、地域の皆さんと準備着手制度の相談に乗らせていただきます。

(4) 同報無線について

同報無線が聞き取れない地区があり、災害時に不安があります。

【回答：杉本市長】

今年度3億6千万円、全体で7億円余りをかけて、昨年から来年度の3年で、全域の同法無線を整備します。老朽化したパンザマストという柱もすべて取り替えます。今まではラップ型のスピーカーでしたが、縦型のスリムスピーカーで相当遠くまで届き、非常にクリアに聞こえます。私の家の近くも替えましたが、とてもよく聞こえるようになりましたので、この整備により難聴地域の解消につながると思っています。

また現在の住宅は非常に気密性が高く、サッシを閉めていると聞こえないことがあります。そこで放送の内容を、各個人へメールやLINE等により配信するシステムを構築し、より伝わる情報伝達手段を考えています。

また、高齢者の単独世帯などの皆さんには、戸別受信機の配布を考えています。1台10万円程しますので、これを全戸配布すると10数億円かかってしまいます。個人所有の携帯電話を活用していただくと相当な経費が浮きます。来年の5月には全域に整備される見通しです。相当、環境が良くなると思います。

3 個人からの意見・質問 (20:10-:20:35)

(1) 大型車両の規制について

焼津水産の跡地にできた丸総の運送の関係です。三栗の八幡宮のところから中町内会に通じる道は、センターラインもない細い道です。トレーラーなど大きなトラックは今までは来たことがありませんでしたが、そのような大きなトラックが出入りします。その為に小さな車が通りにくくなります。あの辺りに「普通車以下優先」というような看板を立てることはできませんか。

【回答：飯塚建設部長】

丸総のトラックが、東名の側道を通り、一般の方が非常に通りにくいということで、市でも聞いています。民間の車両が優先という形にできないかということですが、基本的に道路ですので「通るな」ということは言いにくいです。

大型トラックとトレーラーが通っていますが、トレーラーについては全長が長く、家屋がある交差点を曲がるには少し問題があると認識をしており、丸総さんにも指導しています。

もともと倉庫を作ったのは藤枝の業者で、丸総さんがその倉庫を借りて運送業を営んでいるということで、丸総さんのトラックについては指導がいき渡りますが、他社の車両も入ってくるということで徹底されていないところがあります。その点については、再度、指導させていただきたいと考えています。

市道ですので、ある程度は市の規制もできるかと思いますが、民間の普通車優先というような規制ができるかということについては、検討させていただく必要があるかと思います。丸総さんについては改めて地域の交通に支障がないよう、安全に通行していただくことをお願いしていきます。

(2) 榛原中学校前の交通混雑

朝、生徒を送る車で校門前が混雑をしているそうです。怪我や傷害などで歩けない生徒は別にして、その他の生徒は中学校南側県道 233 号沿いの空き地を借りて、その場所をロータリーのように使って混雑を解消できないか。

【回答：内山教育文化部長】

基本的には保護者の送迎でなく自力で登校するよう生徒・保護者には指導しており、PTA総会でも周知していますが、実際には雨降りなどの気象状況の悪い日に、生徒を送迎する状況が見られます。その際には路上で乗降をせず、校内の駐車場に車を止めて乗降をする約束としていますが、今後もその約束を周知していきます。格技室の前などの奥まで入って降ろしてもらい、校門のところがボトルネックにならないようお願いをしたいと思います。

それでも解消されないということであれば、根本的な解決を考えなければいけないと思いますし、その際には、先ほどご提案していただいたことも含めて検討させていただきます。基本的には自力で登校するか、校門の中に入って停車して、ボトルネックにならない乗降の形を徹底していきたいと思います。

(3) 統合型リゾート（IR）について

資料の最後に統合型リゾートの説明がありますが、そこに市が県に名乗りを上げたという決定がありません。決定するのは県ですが、市として手を挙げたということが載っていないことが不思議です。

活性化のためにこういう話が出てくるのだと思いますし、色んな施設ができるということも分かりますが、実際にお客さんはカジノの賭博を目指してくると思います。そして一番怖いのは、依存症が必ず起きてしまうということです。それも何%かの人が依存症に陥ってしまうわけで、若者たちがそういう所に行って、依存症になって金銭トラブルが起きることも分かっているのに、何でも活性化に繋がればといって手を挙げることはいかなものかと思います。ぜひもう一度検討していただきたい。

【回答：杉本市長】

民間の3団体の皆さんから提案があり、土地の提供先があるかどうかを確認し、皆さんの意見を聞いたうえで、市としては前向きに検討するが、これから合意形成をとる作業を進めていかなければなりません。

何もしないで県にそのまま申請しようということは考えていませんし、最終的な合意形成として、条例を制定して市議会の議決を求めることもできます。議決をもらわないにしても、市民の代表である市議会の皆さんのご理解をいただく必要があります。

これは単なる活性化ということだけではありません。これから人口減少が進みます。L2防潮堤をやるためには、これから百数十億というお金がかかります。そして公共施設の更新にもお金がかかります。お金がかかることは沢山あります。農家も今は茶価が悪く疲弊しています。農家としては出口が欲しいわけです。作ったものが売れば農業をやる人がたくさん出てきます。そうした経済対策などを総合的に考える中で、提案事業者の試算では、最大の利用者が年間3,000万人・一日10万人であったり、あるいは県には税収が1千億円入ったり、市には200億円前後の税収が入るなどということが提案されています。これはあくまでも事業者の提案ですので、我々はその内容をしっかりと吟味していかなければならないと思います。このあたりの話は6月議会の一般質問でも答弁していますが、今後それらを検証していく中で、市民の皆さんと意見交換をしていきたいと思っています。

しかし申請はあくまでも県が国へ行うものです。国が全国で3箇所と言っている一次申請に、県が手を挙げるつもりがあるのかないのか。県議会の一般質問答弁では、牧之原が合意形成をとってからだという言い方を県はしています。

そうした中で県と意見交換をしていますが、県の姿勢がよく見えない状況です。本当に県がやる気があるのか、検討する気があるのかが大前提ですので、牧之原がいくら汗をかいても、いくらお金を使っても、県が最終的にやらないと言えど何なりません。そこをしっかりと県と詰めて、それから方向性を出して、これからの対応をしていきたいと考えています。

今こうしたやり取りをしているので、一時的にIRについては動きが止まっているのは事実です。県に確認を取り、近々その方向性を出したいと思っています。

(4) 統合型リゾートIRについて

ちょうどIRの話がでたので、関連してお聞きします。市民の方でも色々勉強しようと、弁護士を招いたり、いろいろな方の話を聞く機会に参加しました。そういう中で私が一番感じたことは、統合型リゾートは3%のカジノであっても、そこを運営していくためには3%のカジノが儲からないとやっていけない。依存症の人を作らなければカジノ自体が運営できない、ということです。

その結果自殺者や済破綻を起こす人たちが増え、私たちのまちがそういうことに加担して、本当に豊かなまちになるのかが素朴な疑問です。

外国資本の民間業者さんが中心になって進めていくことであり、施設はカジノ業者が造るのかもしれませんが、それ以外の道路等を市が整備していくとなると、本当に牧之原市の収入を増やすことになるのか、とても疑問です。

外国の方や日本の方でカジノに関わってくる方々が、まちを風俗的に乱していくということがあります。実際にそこで働き始める労働者は、外から来る人が多いです。海外の人たちも多いと思います。そうした場合、学校は外国人の対策をどうするのか。考えれば色々な課題が見えてきて、簡単には喜べない事だと思えます。娯楽といっても他と違い異質なものだと思えますので、それに依存してまちを運営・活性化していくという発想自体が私は納得いきません。

【回答：杉本市長】

そういった意見も多々あるということを私も十分認識しています。今、全国では北海道の苫小牧や千葉・横浜・和歌山・大阪・長崎は県をあげて将来の税収確保・賑わいの場の確保ということで、取り組んでいます。静岡県自身は、全く動きがありません。一方で、市内の経済3団体の皆さんをはじめ、IRに期待している市民の皆さんもたくさんいることも事実です。かといって強引に進めるつもりはありません。

これは静岡県の施設であり、地域全体のものです。牧之原市だけの対策ではないと思えます。今後最終的に県が進めるとなれば、そういった整備計画を作っていきます。色んな課題に対する対応や対策を講じていくことになると思えますが、現状では、そのスタートラインにすら立っていない状況です。

県の見解としては、やるという回答は全く出ていません。県は地元の合意形成次第と言っているのですが、そうした問題を牧之原市民だけでやり取りすることは妥当でないと思っているので、県の考え方も含めてこれから進め方の方向付けをしていかなければならないと思っています。

社会インフラの整備の話も出ましたが、今回我々が候補地に挙げたところは、市道はありません。東名高速道路があり、静岡県道473号バイパスを最終的に4車線化することは県がやることですし、市でやることはありません。施設は全て事業者ですし、そうした社会資本整備をいかに事業者に持っていただくのか、これから進めていく中で公募方針を決めていくことになると思えます。

ご意見としては認識させていただきましたし、勉強会でそうしたお話し合いがされているということは私も認識しておりますので、そういったご意見もしっかりと受け止めて、これからの方向性を考えていきたいと思えます。

これは市民の皆さんや市議会の合意、しいては県民の皆さんの合意が必要な、非常にハードルが高い事業だと考えますし、決して強引に進められるものではないと思っています。

(5) 県道吉田大東線について

先ほどの地蔵峠の件ですが、勝間田区だけで問題を解決するようなことはとてもできないと思えます。行政の力をいただかなければならないし、坂部区とも連携しないとイケない。まず最初に地権者・事業者、多くの団体があると思

いますが、将来を考えると、何とかあの山を取り崩して坂部が気持ちよく見えて、坂部からも勝間田がよく見えるというような環境ができたらと思っています。行政のお力添えをお願いします。

【回答：杉本市長】

吉田大東線は一般県道よりも一つ格上の道だと思っています。今のままでいいと思いませんし、整備の必要がある重要な路線です。坂部区とも繋がっている道路ですので、県や市も中に入って色んなアドバイスをさせていただき、まずは第一歩を踏み出していかなければと思っています。また地域の合意、関係地権者のまとめに力を貸していただきたい。

(6) 茶業の減反政策等について

お茶については、今年は史上最悪ということで全く出口が見えてきません。需給バランスが全く狂っているということだと思います。市長の説明で、基盤整備や農業のやり方等はこれからの一つの方向として当然考えていかなければいけないことです。

今の需給バランスを考えた時に、減反政策や価格保障政策などがあっていいのではないかと思います。今の茶業の現状を、茶農家がお茶を作るのにどれだけのコストをかけて作り、それに対する茶価はどうかということ、情報発信していただきたいです。

生産コストを割ったらお茶を何%刈り捨てる。その代わりに何かの形で補填ができるような、そういう政策的な事業も必要ではないかと思います。ぜひ行政とJAが一体となりやっていただきたい。

【回答：杉本市長】

価格保障や収益補償は、主食のお米などで国が交付金を使ってこれまでやってきました。しかしお茶は嗜好品であり、全国的に価格保障というのは難しいと思います。

減反でなく転作であれば、一反10万円の支援を試験的に始めています。今年状況を聞いていると、今年は去年より収益が多かった方もけっこういます。しっかりした出口を持っている皆さんやしっかりしたものを作っている皆さんは、去年より良かったという人たちがいることは事実です。ただそれはごく一部だと思います。

市内でもネット販売で毎年右肩上がりに売上を伸ばしている茶商さんもいます。情報発信の仕方がありますので、私が今取り組みたいと思っているのは、「牧之原のお茶」というキーワードで数十秒の映像を作り、お茶の魅力を目で魅せる動画で発信したいと考えています。

今はスマホの時代です。皆さんも経験あると思いますが、携帯で買い物をし

たり、航空チケットを取ったりすると、Google 等と提携し、関係広告が勝手に出てきます。Google が情報を持っていて、ターゲットを絞り、我々が東京圏で売りたいと思ったら、東京圏のお茶にまつわる買い物をしている人や興味のある人に集中的に情報発信をするやり方もあります。

よくパンフレットを作ります。「牧之原茶」でパンフレットを作ったり、ダイレクトメールを送ったり、色んな物産展でPR用紙を配ったりします。それらは安くても1枚10数円したり、ダイレクトメールを送れば一通80円や100円かかります。ところが先ほどネットを使った強制的な情報発信は、30秒見てくれると課金が発生しますが、一回7円しかかかりません。ダイレクトメールを送る10倍の効果があり、しかもターゲットが見たい情報が届きます。

Google 本社に行って勉強してくるように担当に指示しています。今まで蓄積した動画もありますし、今年度の茶振協の予算で、新たな動画を作りたいと思っています。とにかく出口を増やしたいという思いがあります。

この先お茶の絶対量が増えることはなく、縮小に入っていると思います。海外への輸出であれば増える可能性はあると思いますが、単価の問題があります。国が支援してくれているのは、農薬の登録です。今までは無農薬でないで輸出できませんでした。国が日本で使っている農薬をヨーロッパやアメリカに登録してくれています。無農薬・オーガニックでなくても輸出できる環境がどんどん整っています。そうした面でJAと輸出について取り組むことも必要だと思います。

またお茶一辺倒ではなく、牧之原は日本一日照時間が長いですから、施設園芸に取り組み、高付加価値の野菜・果物を作ることも一つだと思います。今までは航空貨物のみの輸送でしたが、現在は冷蔵技術がとても発達していて1カ月程度でも、イチゴやブドウが冷蔵コンテナで海外に輸出することが可能となっています。御前崎港にも冷蔵コンテナが運べる施設ができています。いろいろな所に分散して施設園芸団地を造るのではなく、基盤整備を行いながらゾーニングをして取り組みをしていかないといけないと思っています。

すぐにできることと時間をかけることと色々あるので、まず今年度は出口を広げる情報発信を取り組みたいと思っています。生産者の皆さんからもご提案をいただき、ニーズに応えられるよう、しっかりと政策に取り組んでいきます。